

令和元年度の基本方針(事業計画)と自己点検・自己評価と外部評価について

重点目標	関連する評価指標		令和元年度 目標値	令和元年度 実績値	達成率	自己点検・自己評価	外部評価
	基本的 運営方針	評価項目					
<p>1 地域の情報拠点としての情報資源整備</p> <p>(1)蔵書構成の見直しを実施し、中長期的な収集方針に基づく資料選定を行うとともに、計画的な除籍・廃棄や適切な資料管理と保存環境の改善を進める。</p> <p>(2)山梨県立図書館情報システムを活用し、デジタル化資料の充実と利用促進を図るとともに、市町村立図書館と連携し、山梨県図書館情報ポータル機能の充実に取り組む</p>	I	(2)貸出	396,000点	345,110点	87.1%	<p>・長期的な視点によるコレクション構築を着実に進めた一方、日々の来館者の多様な要求に配慮した収集にも努めた。</p> <p>・出版情報の確認や寄贈の呼びかけを行い、地域資料の充実を図った。また、未整理資料の計画的な受け入れに取り組み成果を上げた。</p> <p>・利用者が多く利用頻度も高いため、状態を確認し廃棄作業も進めながら適切な保存環境を維持して資料管理を行った。</p> <p>・来館者の増加傾向がみられ、貸出数も新館開館以来初めて前年を上回る数値で推移したが、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のための閉館により、貸出数等の目標達成には至らなかった。</p> <p>・前年度の情報システム機器更新の影響で、デジタルアーカイブの作業やマニュアルに変更があり、データ作成作業に遅れが生じた。</p> <p>・ホームページへのアクセスは、臨時休館中のさまざまな取り組みによって増加した。サービスのお知らせのほか、各種ブックリスト、「自立学習支援/新型コロナウイルス関連リンク集」など緊急事態に対応した情報提供に努め、特に3月期に急増した。</p>	<p>・各指標からは概ね計画通りの資料収集がなされていると判断できる。特に地域資料の寄贈受入作業は目標を大きく上回り成果を上げた。一方、利用者アンケートで「蔵書が充実していると思う」の回答が40%弱である点は課題としてとらえ、回答者がそのように感じた原因をしっかりと分析し、改善する必要がある。また、貸出点数を増やすためには、貸出の伸びているジャンル(需要のあるジャンル)の充実や、日本文化に重要な位置を占めるコミックスなども収集対象とすることが有効である。蔵書の見直しや資料整理の状況については、数値だけでなく具体的な内容についても示してほしい。</p> <p>・情報システム更新の影響でデジタルアーカイブの作業が遅れたが、資料のデジタル化は貴重資料の保存と活用のためにも重要な事業であり、今後も着実に進めてほしい。また、ホームページへのアクセスが若干増えたが、コロナ禍によってネットワーク上でも信頼出来る情報を求める人が多くみられ、今後はさらに発信する情報の質、量ともに高めていくことが求められる。特に電子書籍の提供はコロナ禍への対応としても有効であり、積極的に周知を図り活用していくべきである。研修事業の参加者が年々減少しているが、社会全体のITインフラも整いつつあることからオンライン化による実施も検討してほしい。</p> <p>※重点目標達成の観点からの評価は評価指標の達成率のみでは判断できず、自己点検・自己評価の結果について背景の説明も必要である。また、アフターコロナの新しい社会の状況を受けて、現状の評価指標は見直していくことを検討すべきである。</p>
		(3)相互貸借	5,497点	5,296点	96.3%		
		(4)所蔵資料	958,229点	948,943点	99.0%		
	II	(7)地域資料寄贈受入	5,000冊	6,082冊	121.6%		
		III	(9)ホームページアクセス	272,675件	281,999件		
	(13)多言語資料所蔵数		9,270点	9,219点	99.4%		
	IV	(16)主催研修参加者	1,265人	862人	68.1%		
		(17)子ども読書支援センター資料	3,000件	3,419件	114.0%		
		(18)課題解決資料	2,393冊	2,717冊	113.5%		
	VI	(23)地域資料	87,600冊	92,984冊	106.1%		
(24)デジタルアーカイブ作成		4,600枚	2,942枚	64.0%			
<p>2 レファレンスサービスの周知とサービス対応能力の向上</p> <p>(1)県民が図書館の資源を有効に活用し、知識や情報を得るためのレファレンスサービスを充実させ、周知する。</p> <p>(2)課題別、対象別のサービスを充実させるため、専門分野に対する職員の対応能力向上を図る。</p> <p>(3)中高生の読書活動の推進と利用促進を図るため、学校図書館との連携を深め支援を強化する。</p>	I	(1)入館者	920,000人	913,075人	99.2%	<p>・3月を除くと、入館者数、貸出数ともに前年度を上回るペースだったが、調査相談件数は、一般の質問も山梨県関係の質問も前年度から大きく減少した。それぞれの相談内容は多様化、高度化の傾向があるが、レファレンスサービスの認知度が依然として低く改善していない。さらにサービスの周知を図る活動が必要である。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2月28日から臨時休館としたが、直接来館以外のサービスは可能な限り継続した。また、ホームページで新型コロナウイルス感染症関連の情報をまとめて掲載したほか、電子書籍を拡充し、各種ブックリストや自立学習支援情報を提供した。この間ホームページへのアクセス数は急増し、SNSのフォロワー数も増えた。「コロナ後」のサービス構築に向けて取り組みを進めていかなければならない。</p> <p>・課題解決資料の収集を進め、利用者のニーズへの対応を進めたが、各分野の専門的 情報提供にはつながっていない。外部との連携を積極的に進め、人材の育成にも取り組んでいく必要がある。</p> <p>・児童書の買い換え等にも取り組み、資料の収集は目標を達成した。幅広い資料を基盤に学校支援セットの充実を図り学校図書館との連携を強化した。</p>	<p>・評価指標でレファレンスサービスに関係する項目の件数が減少しているが、ネット情報の活用が進み個人の情報収集環境は高度化していることなどから、件数のみでは成果の検証が難しい面があり、特に専門分野の対応能力の向上については、質的な評価を可能とする評価指標が必要である。利用者アンケートにあるようにサービスの認知度は依然として低いが、利用した際の満足度は高い。周知を図るためには、レファレンスサービスという言葉にこだわらず、どこで、誰に、どのようにしたサービスを受けられるかを明確にするなど利用しやすい環境を整えることが必要である。また、専門的な内容と合わせて、幅広く身近な事柄を対象として、調べる手段を身につけることからサポートするサービスによって、多くの県民が図書館の資源をより有効に活用でき、県民から情報弱者をなくすための施策となる可能性もある。さらに、コロナ禍に対応し、来館しなくても利用できるサービスを拡充していくことによって、多くの県民が図書館のサービスを活用できるよう取り組んでほしい。</p> <p>・子ども読書支援センターの資料収集は着実に進められており、学校支援セットの拡充も行われるなど連携強化のための環境整備に努めている。校外学習での利用件数は減少しているが、学校あるいは学校図書館との連携の在り方については、コロナ禍にあわせて新たなサービスの提供について検討していきしてほしい。ネットワーク上の情報資源の活用が進むと想定されるが、情報の正確性や深度などを各種の図書館資料を用いて具体的に伝える活動で学校と連携するなど、幅広いサービスの提供を期待する。</p> <p>※重点目標達成の観点からの評価は評価指標の達成率のみでは判断できず、自己点検・自己評価の結果について背景の説明も必要である。また、アフターコロナの新しい社会の状況を受けて、現状の評価指標は見直していくことを検討すべきである。</p>
		(2)貸出	396,000点	345,110点	87.1%		
		(3)相互貸借	5,497点	5,296点	96.3%		
	III	(9)ホームページアクセス	272,675件	281,999件	103.4%		
		(10)メディア掲載等	372件	247件	66.4%		
		(11)見学者	125人	117人	93.6%		
		(12)SNS活用件数	750人	1,176人	156.8%		
	IV	(14)調査相談	557件	491件	88.2%		
		(15)講師派遣	17人	16人	94.1%		
		(17)子ども読書支援センター資料	3,000冊	3,419冊	114.0%		
(18)課題解決資料受入数		2,393冊	2,717冊	113.5%			
VI	(25)地域レファレンス件数	1,736件	1,071件	61.7%			
<p>3 外部の関係団体や図書館利用団体等との連携による図書館資料の利用拡大</p> <p>(1)外部の関係団体や図書館利用団体等との連携について、新たな取り組みの可能性を探り、成長する図書館として機能拡大を図る。</p> <p>(2)交流事業・イベント等と連動した資料展示の実施など、図書館で活動する様々な団体と連携し、図書館の資料や機能の活用を進める。</p>	I	(1)入館者	920,000人	913,075人	99.2%	<p>・入館者は増加傾向を示し、交流エリアの各施設の稼働率も高く、幅広く県民活動の場としての活用も進んでいたが、2月中旬から新型コロナウイルス感染症の影響で施設の提供サービスを中止せざるを得なくなった。様々な取り組みによって諸団体と図書館の連携も活発になってきていたが、今後は感染症と共存しながら多くの県民の活動の場としてどのように取り組むかあらためてサービスの見直しが必要である。</p> <p>・県庁各課や県立施設と連携した催しも定着し、主催の新規事業を積極的に実施するなど、図書館資料の利用拡大に取り組んだ。これらは一定の成果を見せたが、2月末以降は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため来館による利用は全て停止した。今後の事業の実施方法や企画内容について見直しが必要になっている。</p> <p>・多くの事業を実施しているが、メディア掲載件数が落ち込みを見せている。新規企画である本の玉手箱、お正月特別企画や、ニュース性のある臨時休館等については、複数のメディアに取り上げられたが、通常のイベントについてはメディアに取り上げられることは少なかった。話題性のあるイベントの企画とメディアに取り上げってもらうための工夫が求められている。</p>	<p>・最終的な入館者数は目標に達しなかったが、90万人以上の利用を維持している点は評価したい。また、地域の書店と連携したやまなし読書活動促進事業が大きな成果を上げており、今後の活動にも期待する。各種の団体の利用が増える中で図書館の資料やサービスを活用した連携企画の対象事業の件数は目標に達しておらず働きかけが必要だが、他の項目同様にコロナ禍を受けた内容等の検討が求められる。</p> <p>・メディアの掲載件数が落ち込んでいるが、外部の関係団体や図書館利用団体等との連携を進めるためにもメディア掲載の広報効果は大きいと考えられ、単なる告知だけではなく掘り下げた内容になるような働きかけもほしい。</p> <p>・諸団体との連携を積極的に進めながら、駅前の施設として県民の日常的なコミュニケーションの場であることを踏まえ、多くの県民が活動するために駅周辺で不足しているリソースが何かを調査し機能の充実を図ってほしい。様々な活動が新型コロナ感染症に影響を受け中断しており、コロナ禍の中での新たなサービスの工夫に期待している。</p> <p>※重点目標達成の観点からの評価は評価指標の達成率のみでは判断できず、自己点検・自己評価の結果について背景の説明も必要である。また、アフターコロナの新しい社会の状況を受けて、現状の評価指標は見直していくことを検討すべきである。</p>
		(3)貸出	396,000点	345,110点	87.1%		
	II	(5)図書館協力員活動	1,920回	1,560回	81.3%		
		(6)企画事業参加者	8,909人	8,378人	94.0%		
		(8)やまなし読書活動促進事業	3,621人	6,018人	166.2%		
	III	(9)ホームページアクセス	272,675件	281,999件	103.4%		
		(10)メディア掲載等	372件	247件	66.4%		
	IV	(17)子ども読書支援センター資料	3,000冊	3,419冊	114.0%		
		(18)課題解決資料受入	2,393冊	2,717冊	113.5%		
	V	(19)交流エリア利用	136,503人	117,254人	85.9%		
(20)交流エリア稼働		76.0%	75.0%	98.7%			
(22)連携企画対象		141件	127件	90.1%			